

髪を編んだヘブライの人々

wundenlocc (*Judith* 325)再考

寺澤 盾

旧約聖書の外典『ユディト記』に基づく古英語期のキリスト教詩『ジューディス』は、『ベーオウルフ』と同じ写本 (British Library, Cotton Vitellius A.XV.) に収められています。ユディトの物語ではヘブライの寡婦ユディトが美貌を利用してアッシリア軍の総司令官ホロフェルネスに近づき、寝室でその首を刎ねます。そして、それをヘブライの人々のもとに持ち帰り、ヘブライ軍を勇気づけアッシリア軍を撃退します。聖書外典ではホロフェルネスを誘惑するユディトの美しさが強調されていますが、古英詩『ジューディス』ではむしろユディトの賢さに焦点が当てられています。しかし、古英詩でも時折、ユディトの外見への言及が見られます。77行目と103行目では、それぞれユディトに対して wundenlocc という形容詞が用いられていますが、wundenlocc は「髪を編んだ」または「巻き毛の」を意味し、髪型を描写する表現です。

wundenlocc が女性の髪型を形容する例は、古英語の『謎詩』(Riddle 25.11) にも見られます。また、『謎詩』(Riddle 40.98-99, 104) には、wunden と locc からなるフレーズが2例見られます。古英詩のなかで女性の髪型を形容する語としては、ほかに「髪を束ねて」を意味する bundenheord (*Beowulf* 3151) が挙げられます。この語はベーオウルフを追悼するために挽歌を歌うイェアートの女性を形容しています。

さて、wundenlocc は古英詩『ジューディス』において、もう1回用いられています。以下は、戦場に横たわるアッシリア戦士の遺体からヘブライの人々が戦利品を奪って、自分たちの街ベトリアにそれを持ち帰っていく場面です。

Pa seo cneoris eall,
mægða mærost, anes monðes fyrst,
wlanc, wundenlocc, wægon ond læddon
to ðære beorhtan byrig, Bethuliam,
helmas ond hupseax, hare byrnan,
guðsceorp gumena golde gefrætewod,
mærra madma þonne mon ænig
asecgan mæge searoponcelra.

[*Judith* 323b-330 強調は筆者による]

(Then all the race, the most famous of races, for the duration of a month, proud and braided-haired, carried and led to the bright city Bethlehem helmets and hip-swords, grey mail-coats, a war-apparel of men decorated with gold – some of more famous treasures than any of shrewd people can tell.)

この wundenlocc (325) は直前の「誇り高い」を意味する wlanc という形容詞と同格で、文の主語であり「民族」を意味する 323 行目の cneoris、すなわちヘブライの人々を修飾していると一般には考えられています。しかし、こうした解釈に違和感を感じられないでしょうか。古英詩における wundenlocc や類義の bundenheord はこの箇所を除くとほとんど全て、女性の髪型について用いられています（『謎詩』に見られる wundne loccas というフレーズでも編んだ髪が肩まで覆っている女性のイメージが木々に覆われた大地に投影されています）。ところが、上の引用にある wundenlocc は男性を含む（あるいは主に男性からなる）ヘブライの集団の髪型に言及しています。ヘブライ人たちの髪型が女性リーダーのそれと同じであるというのも少々滑稽な感じがします。なお、聖書原典にはヘブライ人の髪型への言及は一切見られません。

325 行目における wundenlocc に関しては、19 世紀に『ジューディス』を含むアンソロジーを編集した Max Rieger がその不自然さを指摘しています。「民族」を意味する 324 行の mægþ は語幹が長母音からなりますが、Rieger は、おそらく写字生がそれを語幹母音が短く「女性」を意味する mægþ と混同した結果、mægða mærost を「女性の中で最も偉大な者」と誤解し、それに誘導されて女性を形容する wundenlocc を記してしまったと推測しています。そして、Rieger は 325 行前半を wlanc wigena heap (誇り高い兵士たちの軍勢) のように大胆に校訂することを提案しています。Rieger が 325 行目の wundenlocc に感じた違和感については、私も共有したいと思います。彼の提案した校訂は写本の読みとあまりにかけ離れていて説得力をもつとは言えません。

古英詩『ジューデイス』のエディションは単独のものやアンソロジーに含まれるものなど多く刊行されていますが、Rieger 以外の編者はほとんどの場合 325 行目の *wundenlocc* については写本通りに読み、直前の *wlanc* と同様にヘブライの人々の修飾語と見なし「髪を編んだ」または「巻き毛の」と解釈しています。『ジューデイス』の現代英語訳・ドイツ語訳・日本語訳でも、ほとんどの場合、325 行目の *wundenlocc* を「髪を編んだ」または「巻き毛の」という意味にとり、ヘブライの人々を修飾していると解釈しています。¹

以下では、古英詩『ジューデイス』における *wundenlocc* という表現に焦点を当て、とりわけ普通は女性の髪型について用いられるこの形容詞が、ヘブライ人一般に対して用いられている 325 行目の用例を再検討したいと思います。

すでに指摘したように、325 行の *wundenlocc* は直前の *wlanc* と同格で、主語であるヘブライの民族を修飾すると一般には考えられています。325 行の *a-verse* の *wlanc wundenlocc* は同格の形容詞が等位接続詞を伴わずに並列されています。こうした構造、いわゆる連辞省略的 (*asyndetic*) 構造は古英語では見られますが、『ジューデイス』ではこのような場合はすべて接続詞の *ond* または *ge* が伴っています。

したがって *wundenlocc* と *wlanc* を同格 (主格) とみなすのは難しいかと思います。その場合、*wundenlocc* は *wægon* と *læddon* の目的語として解釈するしかありません。もしそうだとすると、*wundenlocc* は勝利したヘブライの人々がアッシリア人たちから奪い取った戦利品を表すこととなりますが、果たしてそれは可能でしょうか。

古英詩では、*wundenlocc* 以外に、*wunden* を第 1 要素とする複合語が 4 例 (いずれも『ベーオウルフ』) あらわれますが、その中に *wundenmæl* (*Beowulf* 1531)があります。この複合語は「巻飾り」という意味ですが、より具体的には「巻飾りが施された刀」を表しています。『ベーオウルフ』の *wundenmæl* のように、古英詩『ジューデイス』における *wundenlocc* (325)がなんらかの武器・武具を表していた可能性はないでしょうか。

ここで、問題の箇所では本来 *wunden* の直後に *locc* ではなく *loca* が記されていたのではないかと提案したいと思います。なお、*-loca* を第 2 要素とする複合語として英雄叙事詩『モールドンの戦い』には *hringloca* (145)

が見られます。この場合、*loca* は「(戦士の身体を覆う) ^{かたびら} 帷子」のような意味で *hringloca* で「輪をつなぎ合わせた鎖帷子」を意味します。したがって、*wundenloca* は「鎖で編まれた帷子」ほどの意味になります。この校訂形は、*wægon* と *læddon* の他の目的語と同様、戦利品としての武具を指すこととなります。

もしそうだとすると、以下のような推測が可能です。まず、詩人がもともと意図していたのは、戦利品の武具を表す *wundenloca* であったと考えられます (この文脈では、他の目的語と同様、複数対格形 *wundenloca* が想定されます)。しかし、おそらく写字生は原本にあった複合語の前半部分の *wunden* (あるいは *wundenlocc* まで) を見て、このキリスト教詩の先行部分で 2 回用いられている *wundenlocc* を誤って書き記したのではないかと思います。このような転写ミスがおこった要因としては、まず、*wundenloca* と *wundenlocc* の形態がきわめて似ていたということが関わっていると思われます。また、Rieger が指摘したように、写字生が 324 行の「民族」を意味する *mægða* を「女性」を意味する *mægþa* と混同し、女性 (ユディト) を形容する *wundenlocc* と書き誤った可能性もあります。

参考文献

Dobbie, Elliott van Kirk, ed. 1953. *Beowulf and Judith*, The Anglo-Saxon Poetic Records IV. New York: Columbia University Press.

Griffith, Mark, ed. 1997. *Judith*. Exeter: University of Exeter Press.

Rieger, Max, ed. 1861. *Alt- und angelsächsisches Lesebuch nebst altfriesischen Stücken*. Giessen: J. Ricker'sche Buchhandlung.

Trask, Richard M., ed. and trans. 1998. *Beowulf and Judith: Two Heroes*. Lanham: University Press of America.

¹ Richard M. Trask は *mægða mærost* (324)を「女性の中で最も偉大な者 (ユディト)」と解釈し *wundenlocc* はそれを修飾する形容詞としています。この解釈では *mægða mærost* は *cneoris* (民族) とともに文の主語となりますが、古英語原文には 2 つの主語を結ぶ等位接続詞がないことからこの解釈には無理があります。